研究発表座長を終えて

中　田　弘　子
（金沢社会保険看護専門学校）

第20回石川看護研究会学術集会において演題発表の座長の機会を頂きました。また，今回は第20回目という節目の年にこのような貴重な役割をつとめさせていただいたことは大変光栄に思います。

第３群は，看護師の意識や看護に影響する要因分析に関するもので４題の発表がありました。

先ず，第１席の国立病院機構金沢医療センターの大釜ゆり子さんの発表では，CCUにおける不眠に影響を及ぼす要因について，患者側の視点での要因が明らかになっていないと考え，その視点で取り組んだ研究でした。グループで考えた質問紙を用いた反構造的面接方法で面接を行い，不眠の事柄を抽出し要因を分析されました。

結果は，これまでにあきらかになっている要因と一致しておりこの発表を通し，情報収集，問題の明確化，研究目的の決定のステップの重要性を感じました。

第２席，金沢社会保険病院の能登智重さんの発表では，煩雑な業務の中で癌告知後の患者に十分なサポートをしたいが実際にできているのかという疑問から，先ず告知後の患者と関わる看護者の意識をあきらかにしようと取り組んだ研究でした。研究メンバー数人が，面接の基準を一定にしたグループ面接を実施し，看護者の癌告知後の患者と関わる際の思いを抽出し分析されました。

結果は，これまでに明らかになっているものと類似するものや「真実の会話ができる」という新しい知見に繋がるカテゴリーがありました。今後，今回得られた結果を役立てられるような研究をさらにすすめていかれることを期待しています。

第３席，やわたメディカルセンターの北見小百合さんの発表では，口腔ケアに対する歯科専門領域の知識を得ることにより看護者の口腔ケアに対する意識や内容の変化を明らかにしたいと取り組んだ研究でした。

歯科医師による学習会を設け，その前後に研究者による看護者の口腔ケア１場面の観察と，アンケート調査を行い比較検討されました。結果は，患者の個別で口腔ケアを変えたと答えた人が増加しましたが，実際の手技や内容の変化はみられませんでした。

歯科の知識を活用することの有用性が明らかになれば，口腔ケアの質の向上につながります。前後の対象者・看護者を一定にするなど，結果の信頼性を高めるために研究方法を厳密に考えることの重要性を感じました。

第４席，小松市民病院の油野規代さんの発表では，発表者の整形外科病棟におけるせん妄を発症した患者の実態を調査し，直接的な原因を明らかにしようと取り組んだ研究でした。調査期間中に該当病棟に入院し，せん妄を発症した患者のカルテから患者の言動，身体状況について情報収集し，南川らが分類した11項目で分析されました。

結果は，これまでに明らかになっている原因と一致しており，再確認の機会となりました。

午後からは，石川県立看護大学講師北岡和代先生をお迎えし，「看護師の意識や看護に影響する要因分析に関するもの」というテーマで分科会が開催されました。分科会では，フロアーや４演題の発表者からの質問や意見に対する討議と，各演題に共通する問題について大きく３つの視点で講師から解説して頂きました。

先ず１つは，研究動機と研究目的の混乱の整理でした。研究動機から目的の絞り込みは，研究過程でも最も重要なステップだと思われますが，臨床での物理的かつ現実的な問題から討議され今後の課題についての示唆がありました。

２つ目は，基本的な論文の書き方についてでした。文献を引用するときの文中の表し方，引用文献の書き方，図表作成の基本と留意事項など具体的な形式について解説して頂きました。

最後は，倫理的配慮について，日本看護協会による看護研究における倫理指針2004を参考資料にし，４席の事例などを通して解説して頂きました。

今回の分科会の目的は，臨床の現場で看護研究を進める上で，陥りやすい問題点や困難と思う点の解決でした。それぞれ研究活動への問題解決の糸口が得られたのではないかと考えています。

最後になりましたが，研究に取り組まれた皆様には本当にお疲れさまでした。今後の活躍を心よりお祈りしております。